

## ■優先実施箇所

・調査対象約18kmについては、全て調査が完了

## ■優先実施箇所以外

・調査対象約509kmのうち、約9割の約466kmの調査を実施し、評価・分析は約284km完了

・緊急度Ⅰと判定された要対策延長は1.9km、緊急度Ⅱと判定された要対策延長は7.0km

## ■今後の対応

・損傷箇所については、補修等を実施するなど状態に応じた適切な対策を実施

・調査対象の残りの延長約43kmは、高水位で流量が多い箇所のため、安全を確保しながら作業が可能となるような措置を講じて、できる限り早期の調査完了を目指して実施

優先実施箇所			今回公表 R8.4.13時点	前回公表 R7.9.10時点	累計	今後実施
調査対象 約18km	調査実施済み延長		約1km	約17km	約18km (100%)	0km
	調査結果を評価・分析した延長	緊急度Ⅰと判定された要対策延長	0km	約17km	約17km	約1km
		緊急度Ⅱと判定された要対策延長	判定中	0.2km	—	
		緊急度Ⅱと判定された要対策延長		1.1km	—	
優先実施箇所以外			今回公表 R8.4.13時点			今後実施
調査対象 約509km	調査実施済み延長		約466km (約92%)			約43km
	調査結果を評価・分析した延長	緊急度Ⅰと判定された要対策延長	約284km			約225km
		緊急度Ⅱと判定された要対策延長	1.9km			
		緊急度Ⅱと判定された要対策延長	7.0km			

(参考:国土交通省の判定基準より抜粋)

緊急度	緊急度に応じた対策内容
I	原則1年以内に速やかな対策を実施
II	応急措置を実施した上で、5年以内に対策を実施

※調査によって確認された損傷の多くは軽微で局所的。一部で腐食による損傷が見られたが、下水道管本体の構造は安全であることを確認

## ○補修例①: 浸入水に対する補修



補修前



補修後

## ○補修例②: 劣化部分に対する補修



補修状況



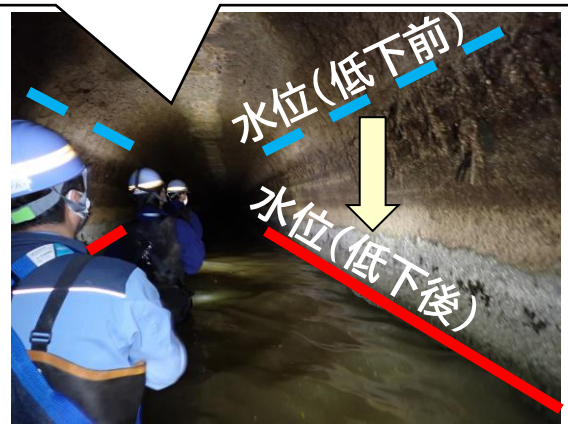
補修後

・ 作業員による目視調査のほか、水位が高い箇所等においては、下水の流れを切替え、大容量のポンプによる水位低下を図るとともに、潜水土やドローン、テレビカメラなどを活用するなど、現地の状況に応じて様々な工夫を行い実施

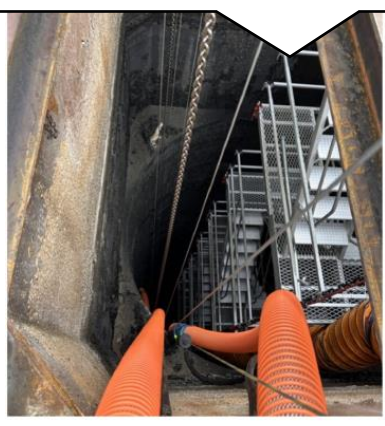
水位が高く危険が伴う箇所においては、水再生センターの運転調整やポンプ排水により、調査ができる程度まで水位を低下→目視やドローン等による調査を実施

地中深くに埋設されている下水道管の調査では、ポンプなど必要な機器の運搬等のため、約60m(ビル20階分)の仮設階段を設置

目視調査のほか、潜水土やドローン、テレビカメラなど様々な手法で調査を実施



水位低下を図った上での調査

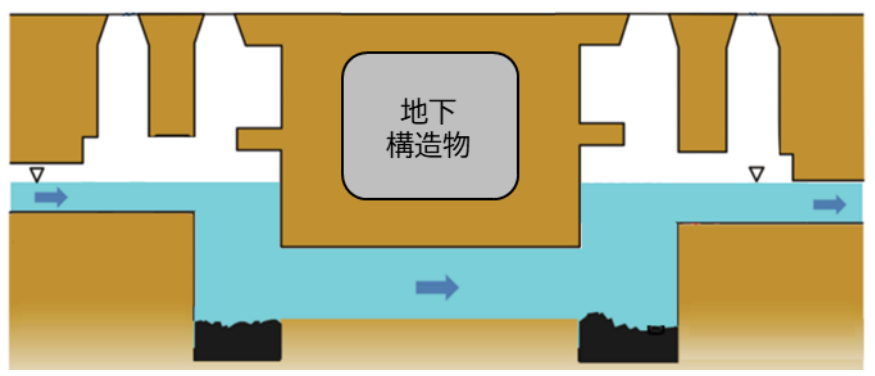


調査のための仮設階段設置

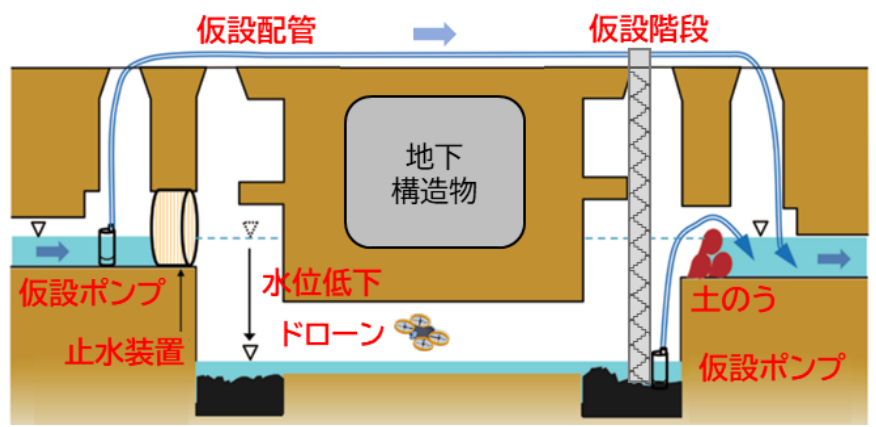


潜水土やドローン等による調査

○水位低下のイメージ図



水位低下前



水位低下後